



Title	カンピソ ヌカ トゥンプ (国立アイヌ民族博物館ライブラリ) の開設
Author(s)	笹木, 一義
Citation	司書 司書教諭課程年報, 21: 29-30
URL	http://hdl.handle.net/10291/21586
Rights	
Issue Date	2021-03-31
Text version	publisher
Type	Departmental Bulletin Paper
DOI	

<https://m-repo.lib.meiji.ac.jp/>

〈寄稿〉

カンピソシ ヌカラ トウンブ (国立アイヌ民族博物館 ライブラリ) の開設

国立アイヌ民族博物館 研究員

笹木 一義

*はじめに

アヌココロ アイヌ イコロマケンル 国立アイヌ民族博物館 (<https://nam.go.jp/> 以下「当館」) は、札幌から車・鉄道で約1時間に位置する、北海道白老郡白老町に2020年7月に開館した、国立の博物館です。アイヌ語を第一言語としており、館名はアイヌ語で「私たちが共有するアイヌの宝がある場所」を意味します。

筆者は博物館の研究員ですが、2016年度の明治大学司書講習修了の2年後に、当館ライブラリの開設に2年ほど関わりました。ここでは当館ライブラリの紹介とともに、開設業務と司書講習で学んだこととのつながりを記したいと思います。

*国立アイヌ民族博物館について

当館は、先住民族であるアイヌの文化を展示・調査研究を主題として活動する、国内では初めての国立博物館です。設立の理念は、「先住民族であるアイヌの尊厳を尊重し、国内外にアイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進するとともに、新たなアイヌ文化の創造及び発展に寄与する。」と定められます。アイヌ民族は「かつて存在した」民族ではなく、2021年の今現在に「和人」すなわち(アイヌ民族に対する)日本の多数者、と同じ生活様式で暮らしています。



図1: 国立アイヌ民族博物館外観

当初は2020年4月開館予定でしたが、COVID-19の影響を受け、3ヶ月遅れの同年7月12日の開館となりました。7月の開館時は、入場数の制限と事前予約制の導入、さわる展示の運用停止のなかでの開館となり、ライブラリについても当初開室できず、9月によりやく席数と人数を限定するかたちでの限定オープンとなりました。

*博物館での業務

筆者は現在研究員として、展示やシアター映像の開発、展示を使った教育普及活動、調査研究等を行っています。前職でも科学館や複合文化施設等で勤めましたが、博物館と図書館の活動をより連携することができないかと考え、司書資格を取りました。その後すぐライブラリの開設担当になるとは想像していませんでした。

*ライブラリの特徴と、開設の業務

+カンピソシ ヌカラ トウンブの紹介

当館のライブラリはアイヌ語で「カンピソシ ヌカラ トウンブ」という名称です。「紙を束ねたもの(本)を読む部屋」という意味です。約70平米の空間に、開架約700冊、閉架は現在1万5000冊が登録されています。閉架書庫は2層で、全体としては約7万冊が収容できます。

開館した現在は、当館のライブラリの概要を下記のように紹介しています。「アイヌ文化や歴史を取り上げた書籍を中心に、「開かれた専門図書室」として、どなたでもご利用いただけます。展示や体験プログラムで興味を持ったことを、本とともに深めてみてください。アイヌ文化に興味を持っていたかたに、次に手に取ってもらえる本をはじめ、専門的

な学術書、世界の先住民族についての本、絵本や写真集、図鑑など、幅広い世代のかたがたに向けた本を用意しております。(室内閲覧のみ)

＋ライブラリの開設業務

開設業務とは、「どのような図書室として運用していくか」という部分も含め、博物館の基本計画をもとに、全て考えて決めていかなければならない、ということでした。図書館実務経験がある同僚研究員の方々の助力を得ながら、数名のチームで準備を始めました。コンパクトな図書室とはいえ開設業務は多岐に渡り、これらを常設展示の開発や、博物館の施設・備品整備とも並行しながらの業務でした。



図 2：ライブラリ内観

具体の業務としては、博物館の図書室機能の事例調査／既存図書資料の把握と整理方針検討／専門図書館としての図書室の基本方針の策定／選書のための調査・方針検討／開架書架・書棚の設計検討／テーブル、ソファ等の什器の検討・選定／図書管理システム検討・入札対応／図書管理システム設計と登録・整理方針の策定／運用規程の検討／開館時の開架用図書の購入／OPAC・業務端末・コピー機の選定とインフラ整備／配架方針の策定、などがありました。

開架用図書の選定や、配架計画の際に特に留意したことは3つあります。1)「当館でアイヌ文化に興味を持ったかたが、次に調べるときに入手しやすい書籍も取り入れること」

2)「民族共生」や「多文化理解」に資する図書室として、「様々な文化にふれ、相対化して考えられるような書籍」を積極的に取り入れています。例えば、アイヌ文化についての記載がなくとも、世界各地の食文化、音楽、言葉、習慣などを調べることができる書籍を揃えました。3) NDC 順に並べると3類等に偏りがちになるため、壁面全体に設置された開架書架のなかで、内容を連想しながら調べていけるような配架計画としました。例えば、ある書棚の区画にヒグマの霊送り儀礼の本があった場合、その周囲の区画には「ヒグマの生態や人間社会との関わりの本」、「エゾシカ等北海道の野生動物の本」、「ヒグマ以外の動物が関わるアイヌの伝承の本」、「熊の木彫り等の工芸品の本」、というかたちです。

2020年4月に司書が採用となり、そのかたが主担当となりましたが、開館直前の運用準備、そして開館後も未整理の図書の整理だけでなく、NACSIS-CAT/ILLの運用に向けた体制やシステム整備、開館後の開架・閉架の環境整備、古い書籍の修繕、OPACのwebページの整備・更新、図書管理システムの実運用やシステム保守、そしてアイヌ文化に関するレファレンスへの回答対応などの業務に携わっていただいています。

* 司書講習で学んだことで役立ったこと

開設の業務は多岐に渡りましたが、「どのような専門図書室を誰に向けて作るのか」を考える際に、司書講習での学びが有用だったと思います。また、NDCを念頭に置きつつ配架計画を練ること、レファレンス、ILLやリポジトリについても、博物館業務とのつながりを考える糧になりました。これから資格取得を目指す方々へは、MLA連携によって、図書館や博物館といった社会教育資源を利用者がどのようにさらに深く利用できるのか、という部分にも目を向けていただくとよいのでは、と思います。

機会がありましたら、距離がある北海道ではありますがご来館、ご来室お待ちしております。